

石がま漁の最盛に向けて

23 NPO法人 湖山池石がま漁を伝承する会

消えゆく漁法

鳥取市郊外に広がる湖山池。湖岸から五〜十メートル離れたところに石が積み上げられ、島のようなものがぼつんぼつんとみえる。これは「石がま」と言い、江戸時代から始まったといわれている全国でも珍しい漁法「石がま漁」のた



伝統的漁法「石がま漁」の様子



石がまの復元と石がま漁の伝承

この湖山池ならではの、「石がま漁」を存続させようと立ち上がったグループが、会長 芦澤喜武さん（湖山町東五丁目）をはじめとする「湖山

池石がま漁を伝承する会」（会員数四十五名）のみなさんだ。まずは、使われなくなった石がまを復元しようと、会員が少しずつ修復。昨年やつと一基完成した。「池の底の泥を取り除いて漁ができるようになるまでに二年間かかりましたわ」と事務局長の児島良さん（湖山町北六丁目）。石がま修復は、池の底に溜まったヘドロを取り除き、崩れかけた石を積み上げるなど大変であったが、この作業で、石がまづくりの構築法を再確認し、後世に語り継ぐための研究の一つとして役立った。

また、会員たちは、市民に「石がま漁」を知ってもらうため、石がま漁を実際に体験してもらい捕れた魚を使った料理を堪能してもらおう「石がままつり」を開催。親子づれで賑わい大盛況だった。この他にも、

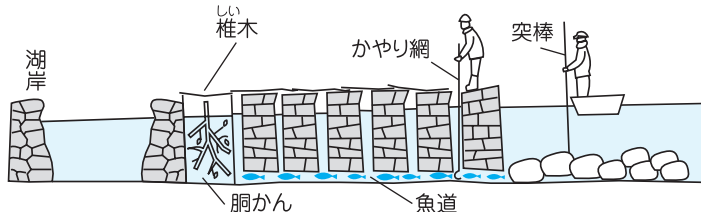


事務局長の児島さん

シンポジウムを開くなど石がま漁の伝承活動を展開している。

「私たちは、活動を続けるにしたいが、生態系豊かだった湖山池を三十年という短い期間で壊してきたことに気が付きました。今後はそれ以上の時間をかけてでも元の自然に戻していかなければなりません。そのためにも次世代の子どもたちに、湖山池の環境の大事さを教え、自然を復活させる活動を担ってもらわなくてはいいけません」と児島さんは語る。

湖山池の自然を取り戻し、石がま漁の最盛に燃える「湖山池石がま漁を伝承する会」の活動は、始まったばかりだ。



「石がま漁」のしくみ (図：田中善蔵さん提供)